

日本肥満学会の「肥満症の診断基準と治療ガイドライン」検討の最前線

I . 日本肥満学会の「肥満症の診断基準と治療ガイドライン」に関する取り組み

日本肥満学会はこれまで、2000 年に「新しい肥満の判定と肥満症の診断基準」、2006 年に「肥満症治療ガイドライン 2006」、2011 年に「肥満症診断基準 2011」を作成し、我が国における肥満症診療のガイドラインを提案して来た。

本来、生活習慣病の診断基準や治療指針は、人口の年齢構成や生活習慣などの変化や関連する最新の研究成果などを反映し、絶えず変化するものであり、生活習慣病の中核に位置すると考えられる肥満症は、これらの変化に関する新しい研究成果を取り入れて、診断基準と治療指針に反映させることが必要である。

日本肥満学会では、2011 年より肥満症診断基準検討委員会（森 昌朋委員長）と肥満症治療ガイドライン検討委員会（宮崎 滋委員長）を組織し、進行中の肥満症の診断基準と治療指針に関する両検討委員会で議論中の最新の考えをまとめたものである。

II . 肥満症の診断基準

診断基準の骨子は、従来の肥満症診断基準を基にして新診断基準を検討しようというものである。すなわち、従来の基準はBMI 25 以上 11 の肥満関連疾患（耐糖能障害、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症・痛風、冠動脈疾患、脳梗塞、脂肪肝、月経異常及び妊娠合併症、睡眠時無呼吸症候群・肥満低換気症候群、整形外科的疾患、肥満関連腎臓病）のうち 1 つ以上の健康障害を合併するか、またはBMI 25 以上で男女共にCTで測定した内臓脂肪面積が 100cm²を有する場合を肥満症と定義している。

委員会では、BMI 25 以下の正常 BMI (25 ~ 18.5) でも内臓脂肪蓄積を反映するウエスト周囲長がカットオフ値を超え、8 つの肥満関連代謝性疾患（耐糖能障害、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症・痛風、冠動脈疾患、脳梗塞、脂肪肝、肥満関連腎臓病）のうち 1 つ以上有する患者群は肥満症と同様に減量が有効である可能性がある。

また、内臓脂肪蓄積の基準値の作成と 8 つの肥満関連代謝性疾患についても討議を重ねた。減量により内臓脂肪面積を正常化させ、肥満関連疾患を減少できる可能性のある患者群として、今後も検証を続ける方針である。

宮本ら（国立循環器病研究センター）から肥満症診断におけるウエスト周囲長カットオフ値の決定に関するメタ解析の報告が本学会シンポジウムでもなされ、日本肥満学会で発表された「肥満症診断基準 2011」の診断細則に基づく、高血圧、耐糖能異常および糖尿病、脂質異常の 3 つの肥満関連疾患うち、1 つ以上を示す男性ならびに女性のウエスト周囲長に関する 12 施設からなる、約 16 万人のデータに基づく Summary ROC のメタ解析の結果が示された。その結果、上記の肥満関連疾患を 1 つ以上保有するウエスト周囲長のカットオフ値は男性で 82 ~ 86 cm (85 cm)、女性で 79 ~ 83 cm (80 cm) が妥当であることが示された。

ⅠⅠⅠ．肥満症の治療ガイドライン

津下ら（あいち健康の森健康科学総合センター）は、特定保健指導対象者から肥満症の診断基準に合致し、積極的支援を行った症例 3,496 名（平均 48.3 歳）を抽出し、1 年後の体重減少と、耐糖能異常、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症、肝機能障害の 5 種の健康障害との関係を発表した。それによると、体重が 1～3%減少するとトリグリセリド、HDL-C、HbA1c、肝機能（ALT）が、3～5%の減少で収縮期血圧、拡張期血圧、空腹時血糖が有意の改善が認められた。また、3%以上、5%以上の減量達成率は各々 33.6%、19.9%であった。これまでは肥満症の健康障害の改善には 5%の体重減少が必要と考えられていたが、3%というわずかな体重減少でも健康障害の改善が認められることを報告した。

宮脇ら（NTT西日本京都病院）は、過去 10 年間に行った人間ドック受検者（男性 3,977 名、女性 810 名）で複数回 CT 検査を行い内臓脂肪面積（VFA）100cm²以上の者において、メタボリックシンドロームの構成疾患の減少数と VFA の減少の程度を見ると、男性では VFA 9 cm²の減少でリスク数が 1 から 0 に減少し、25 cm²の減少で 2 から 0 に減少、女性では有意な相関が無いことを明らかにした。

肥満症治療ガイドライン検討委員会は、肥満症の減量治療目標については、具体的数値目標についてのエビデンスが日本では極めて少ない現状で、検討にあたって平成 24 年のシンポジウムの津下氏、宮脇氏の発表データなども参考にした結果、減量治療目標を「現体重の 3%以上の体重減少」とし、減量治療による肥満症の健康障害への改善効果を併せて評価することが提案された。「肥満症治療ガイドライン」の作成に向けて検討を継続し、加速することが確認された。

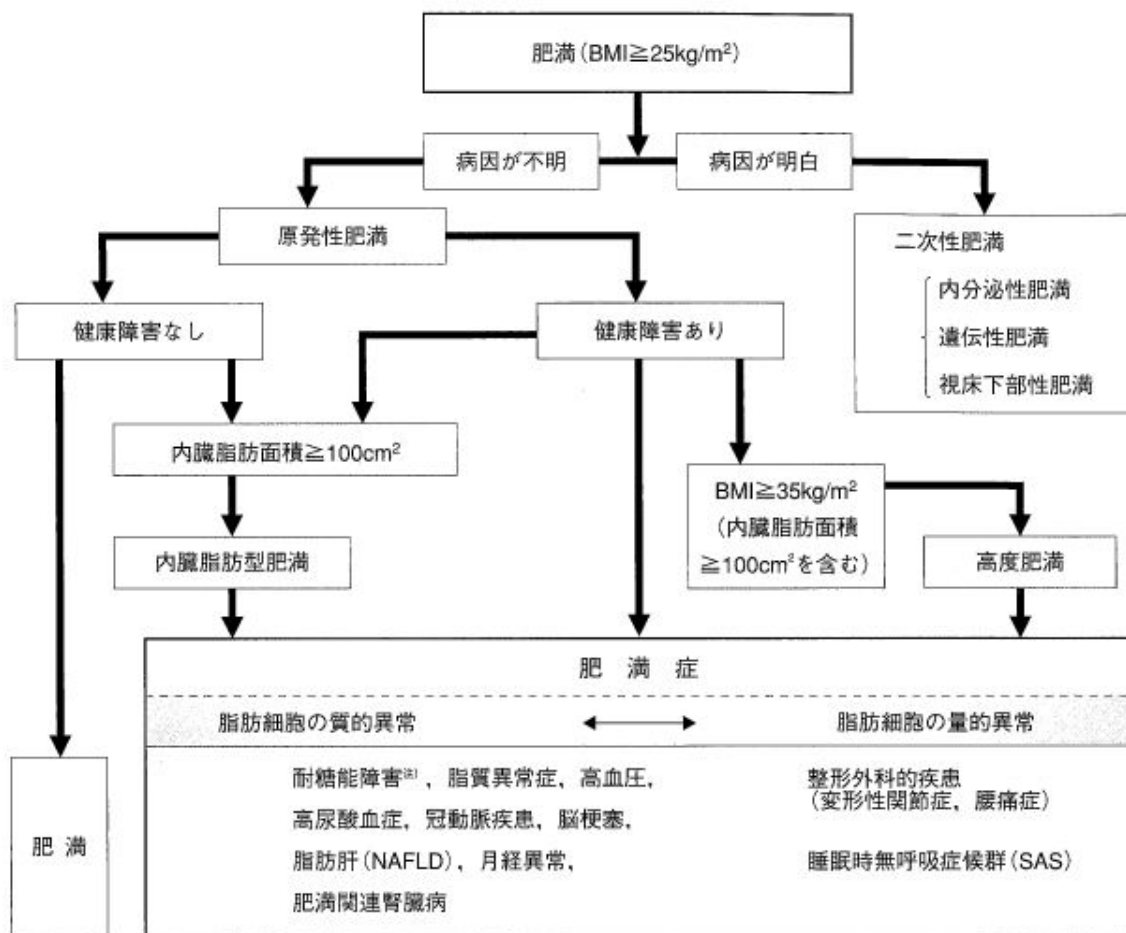


図 A 肥満症診断のフローチャート (肥満症診断基準 2011 より引用)

注) 2 型糖尿病・耐糖能異常を含む

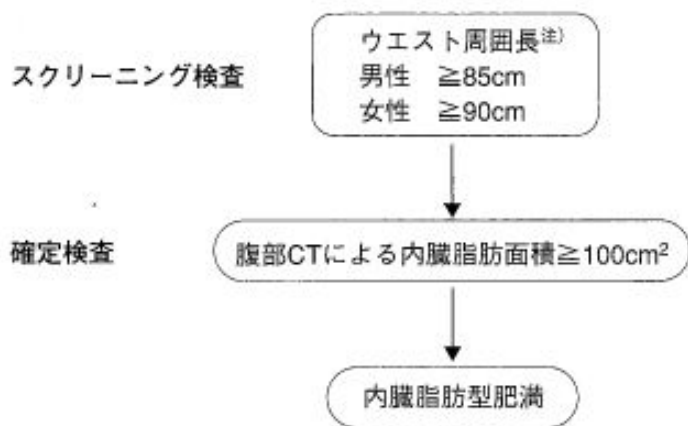


図 B 肥満における内臓脂肪型肥満の判定手順 (肥満症診断基準 2011 より引用)